

中央図書館と利用者みなさんをつなぐ広報誌

ざ・ちゅうおうぷれす

107

July 2023



特集

「ありがとう！梅丘図書館」

潜入！梅丘図書館のウラガワ

イベントレポート

学びのプレゼン講座 | 本の推し活ワークショップ

本のお楽しみ袋をつくってみよう！

「子どもの心を育むむかしばなし」

「戦争と児童文学」

子ども読書の日記念イベント「かがくのおはなし会」

子ども読書の日記念講演会「とっておきのおはなし」

特集

「ありがとう！梅丘図書館」

世田谷区立梅丘図書館

昭和43年の開館以来55年間、地域の皆様にご利用いただいていた梅丘図書館がこのたび建て替え工事のため一時閉館することになりました。たくさんの方に本を貸し出し、ときには自習室で受験生たちを見守ってきた図書館、その思い出を振り返るとともに、普段見ることのできなかつた図書館の裏側をご紹介します。

梅丘図書館 思い出の場所

まずは、閉館前の梅丘図書館の様子からご紹介します。梅丘図書館の顔ともいえる書庫や、図書館での思い出を貼り出したコーナーなど、別れを惜しむ様々な企画の様子をご覧ください。



【書庫】

梅丘図書館の一般向け資料の多くはこの書庫（写真左側）に収められています。1階から3階まで、本が密に詰まった空間は内側からでも、そして児童コーナーからガラス越しに見上げてみても壮観でした。皆様も、ご希望の資料を探しにこの空間をあっちこっち移動した経験があるのでは？



【本の思い出】

図書館の児童コーナーの正面にあるのは皆様から募った思い出の資料を紹介するコーナー。ブックトラックに並べられた資料は注目されるのか、かなりの数が借りられていました。誰かの思い出の資料が別の方の思い出になっていくのはとても素敵なことと思います。



【図書館の思い出】

図書館のスロープ側の入り口から入ったところに、皆様の「図書館の思い出」がたくさん貼ってありました。開館当時子どもだったけれど、今ではお孫さんと図書館を楽しんでいる方もいらっしゃるようです。他にも過去のレファレンスや出来事など様々な思い出が貼ってあり、長い歴史を感じました。

潜入?!

梅丘図書館のウラガワ

4月29・30日に梅丘図書館、館内ツアーが開催されました!これまで立ち入れなかった図書館の地下や屋上も解放され、盛りだくさんのツアーになりました!!ツアーの様子とともに、知られざる図書館の一面をお楽しみください。

図書館ツアー当日、天気はあいにくの雨模様。募集は10人でしたが、多くの希望があったため、当日の参加者は倍近くの人数となりました。ツアーは図書館正面入口からスタートです。梅丘図書館は昭和43(1968)年に、佐藤武夫設計事務所により設計されました。佐藤武夫の代表作に、早稲田大学の大隈講堂があります。公共施設を多く手掛けている事務所ですが、特に音響の良い施設を得意としていて、開館間もない頃の梅丘図書館ではレコードコンサートが催されたこともあるそうです。図書館の外にはベランダがあり今では立ち入れませんが、昔は喫煙する場所だったのでと館長は推測しています。

次は普段入れない閉架書庫のご紹介です。貴重な地域資料や古い資料が収められています。狭いスペースでも大量の資料を収納できるよう、棚が隙間なく並んでいます。本棚についているハンドルを回すと人が通れる通路ができるので、必要な資料がある棚の部分のハンドルを回して通路を作り、取りに行きます。書架を動かすなどツアーに参加しないとできない経験で、特に子どもたちが楽しそうにハンドルを回していました。

続いて、図書館の外にある坪庭(!?)です。児童コーナーに面した窓に鍵のかかった戸があります。その向こうには、竹の生えた小さな坪庭があります。図書館1階より低い位置にあり、建物と壁に囲まれているのでちょっと暗く落ち着いた空間です。細い竹が生えていて、七夕の時期にはここから採った竹を使って飾りを作っていたそうです。

次は図書館の地下、ボイラー室です。児童コーナーを貫く大きな柱のようなものがあります。この中は屋上から地上までをつなぐ階段となっています。図書館の1階部分は地面よりも高い場所にあり、地面の高さにもフロアがあるので、現在の空調システムが稼働するまではボイラーで空調を動かしていました。住み込みの管理人がいて、生活スペースがあり、流しやお手洗い、郵便受けも設置されていました。管理人室の地下にボイラー室があります。ボイラーは現在使われていませんが、当時の設備はそのまま残っています。柱の中の階段を上りきると、図書館の屋上に出ます。南側に視界が開けており、梅ヶ丘駅の方がよく見えます。北側は羽根木公園の斜面が迫っており、木が建物に向かって張り出しているため、タヌキが木を伝って屋上に来ることがあるそうです。

新しい梅丘図書館にはカフェが入り、羽根木公園と3階のテラスがつながる予定です。今後にご期待ください。

チェロの小部屋



柱のような階段を下り、ボイラー室に向かう途中にある小部屋に、弦の張られていないチェロが置いてあります。この図書館は音響に優れた建物だったので、過去にチェロを用いた演奏会が開かれていたのかもしれない。

ボイラー室



ボイラー室の奥に、長い間使われていない洗面台と鏡がありました。前日のツアーの際に、何年振り(何十年振り?)に蛇口をひねったところ、あまりに使われていなかったため真っ赤な水が出たそうです。鏡には得も言われぬ恐怖感があり、皆様覗いては不気味がっていました。

坪庭



図書館の1階よりも低い場所にある坪庭。完全に見えない場所にある、誰にも行けない隠れたスポットです。4月末ということで、春先に生えてきた竹も大人の身長くらいにまで成長し、春の深まりを感じました。

新しい梅丘図書館



改築後の梅丘図書館です。3階建てとなり、1階にはワークショップエリアやカフェエリアが作られる予定です。またデザインはイメージです。

学びのプレゼン講座 本の推し活ワークショップ

本のお楽しみ袋をつくらう

読んでもらいたい本！知ってもらいたい本！
おすすめ本を図書館で探して集めて
みんなにどんどん読んでもらうというこの企画。
花田菜々子さんのアドバイスを聞きながら
参加者のみなさんが素敵なお楽しみ袋を
たくさん作っていただきました。



3月12日、中央図書館3階「ぎんが」に30名の参加者のみなさんが集まりました。講師の花田菜々子さんと一緒に、本のお楽しみ袋をつくるワークショップがはじまります。

早速、花田さんに本をセレクトする時のコツを伺います。まずはテーマ設定について。「猫」ではなく「猫を溺愛していた作者が描いた本」くらい具体的な方が読んでみたくありませんよね？と、花田さん。これには参加者のみなさんも大きくうなずきます。さらに「まず1冊好きな本を選び、それに何を組み合わせるかを考えると作りやすいです」と実践的なアドバイスも。参加者の方からは「読んだことない本をおすすめしてもいいんですか？」と質問がありました。「書店員も全部の本を読めるわけではありません。読んでなくても、タイトルや表紙を見てどう感じるか。その感覚は、大事にしていっていいですよ。」この回答を聞いてほっとした参加者のみなさんも多かったようです。

花田さんのお話を聞いてきて、早く本を選びたくなってきたみなさん。たくさん教えていただいたアドバイスを胸に、図書館に本を探しに出かけました。



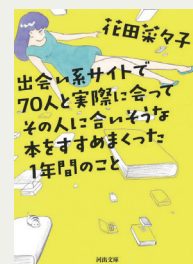
図書館の蔵書から3冊選び、タイトルと説明文をつけて思い思いのお楽しみ袋をつくります。出来上がった袋は図書館に並べられ、貸し出されました。



お互いのお楽しみ袋を見比べて、素敵だと思ったお楽しみ袋に投票をしました。人気の袋を作った方には、制作意図を話していただきました。

花田 菜々子さん

東京都生まれ、約20年間さまざまな書店を渡り歩き書店員として働く。現在は東京・高円寺の「蟹ブックス」の店長。自らの実体験を綴った『出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に合いそうな本をすすめまくった1年間のこと』を河出書房新社より出版。6万部超えのベストセラーとなった。



『出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に合いそうな本をすすめまくった1年間のこと』
著：花田菜々子
河出書房新社

みなさんが作った！

本のお楽しみ袋をご紹介します！

ワークショップでつくられた本のお楽しみ袋をいくつかご紹介！

読まれた方からのお返事も、あわせてお楽しみください！

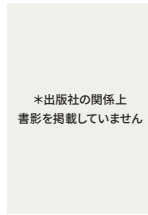
「いろんながっこう」袋の本



『女子の国はいつも内戦』
著：辛酸なめ子
河出書房新社



『生協の白石さん』
著：白石昌則
講談社



『秋田・消えた分校の記録』
著：佐藤見之輔
無明舎出版

いろんながっこう

の本をセレクトした方へ、読んだ方からのメッセージ

私にとって「学校」は社会課題そのものですが、平仮名の「がっこう」は、純粋に「がっこう」そのものの姿を思い出させてくれて、ほっとしました。



「今日から養生生活をはじめよう」袋の本



『絵でわかる京都・お灸堂のほどよい養生』
著：すぎさん
学研プラス



『新釈養生訓』
著：具原益軒
訳編：蓮村誠
PHP研究所



『名医が伝える漢方の知恵』
著：丁宗鐵
集英社

今日から養生生活をはじめよう

の本をセレクトした方へ、読んだ方からのメッセージ

数日後に後期高齢者になります。西洋医学に疑問を感じていましたが、3冊の本を読み、なるほど、とふに落ちました。暴飲暴食を避け、ほどほどに飲食を楽しみます。



「至福のおやつ時間」袋の本



『アレンジ & クリエイティブアイスコーヒー』
編：旭屋出版 CAFERES 編集部
旭屋出版



『焼き菓子』
著：坂田阿希子
河出書房新社



『人気カフェ・バリスタのユニークドリンク』
旭屋出版

至福のおやつ時間

の本をセレクトした方へ、読んだ方からのメッセージ

小学5年生の女の子です。おいしそうな絵やテーマだったので借りてみました。まだ、コーヒーは苦手なので、大きくなってから飲んでみたいです。



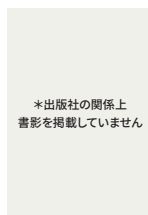
「大切なひとの故郷について、きちんと話せますか？」袋の本



『全47都道府県幸福度ランキング』
監修：寺島実郎
編：日本総合研究所
東洋経済新報社



『東京で楽しむ物産館オールガイド』
著：野崎陽子
メイツ出版



『秋田はじめて物語』
編：無明舎出版
無明舎出版

大切なひとの故郷について、きちんと話せますか？

の本をセレクトした方へ、読んだ方からのメッセージ

自分では、選ばないような本ばかりだったので、新鮮な気持ちで読めました。色々なところに出かけて、その土地ならではの楽しみを見つけたいと思います。



「子どもの心を育む むかしばなし」

2/8
水曜

東京子ども図書館の内藤直子先生をお迎えし、子どもの本の講座「子どもの心を育む むかしばなし」を開催しました。

参加者は、擬音語・擬態語・繰り返し・先取りなど、むかしばなしの特徴や話法についての説明を受けながら、子どもたちを惹きつける「むかしばなし」の楽しさや魅力について学びました。内藤先生の優しい肉声によるむかしばなしの語りも満喫しました。



むかしばなしの魅力を語る内藤直子先生



『昔話と子どもの空想』
編纂：東京子ども図書館
東京子ども図書館

「戦争と児童文学」

2/18
土曜

「戦争と児童文学」をテーマとして、野上暁氏と土居安子氏にご講演いただきました。野上氏は日本の児童文学に焦点を当て、明治期から戦前戦中の戦意高揚作品や、戦後の反戦と平和をテーマにした作品まで、戦争児童文学の歴史を書影で紹介。土居氏は海外児童文学作品のなかから、加害者視点や逆に被害者視点で描かれたもの、ユダヤ人迫害、難民問題などのテーマを扱った作品を紹介してくださいました。



評論家・作家の野上暁氏と、大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員の土居安子氏



『明日の平和をさがす本
戦争と平和を考える絵本からYAまで300』
編著：宇野和美、さくまゆみこ、
土居安子、西山利佳、野上暁
岩崎書店

子ども読書の日記念イベント

「かがくのおはなし会」

4/16
日曜

4月23日は子ども読書の日です。子どもが本に親しんでもらうために定められました。

中央図書館では、毎年この日を記念し「かがくのおはなし会」を開催しています。今年は25名の方に参加していただき、大型絵本の読み聞かせやマーブリングを行いました。好きな色を組み合わせて、素敵な模様の葉が完成しました。



大型絵本の読み聞かせの様子



『うまれたよ! アメンボ
(よみきかせいきものしゃしんえほん18)』
写真：中瀬潤
構成・文：小杉みのり
岩崎書店

子ども読書の日記念講演会

「とっておきのおはなし」

4/22
土曜

子ども読書の日記念講演会「とっておきのおはなし」を開催し、児童書作家のあんびるやすこ先生をお迎えいたしました。

はじめに、物語を作るときの流れや実際に使用している画材をスクリーンに投影しながら紹介していただきました。講演会後半では、『ルルとララ』シリーズや『なんでも魔女商会』シリーズの制作秘話を教えていただき、参加された子どもたちが熱心に聞いている様子が印象的な講演会でした。



あんびるやすこ先生の使用している画材紹介



『なんでも魔女商会 29
ナナのバッグのメタモルフォーゼ』
著：あんびるやすこ
岩崎書店

図書館からのお知らせ

読書の秋の講演会

「第十四回 落語と読書」

図書館司書の資格を持つ、入船亭扇治師匠による公演です。古典落語とともに本にまつわる新作落語もお楽しみください。

日時 9月16日(土) 午後2時～4時
 場所 中央図書館(教育会館)
 3階「ぎんが」
 対象 小学生以上 定員50名(要申込)

*詳細は8月中旬にお知らせいたします。

文字・活字文化の日

記念講演会

ノンフィクション作家の高野秀行氏をお招きして、ご講演いただきます。

日時 11月3日(祝・金) 午後2時～4時
 場所 成城ホール(成城6-2-1)
 対象 小学生以上
 定員300名(要申込)

*詳細は9月中旬にお知らせいたします。

プラネタリウムからのお知らせ

「イナズマデリバリー バイザウェイの宇宙旅行?!」

—ブラックホールとの遭遇(そうぐう)—

当日の星空紹介の後、オート番組をご覧ください。

日時 7月21日(金)～8月31日(木)
 午後1時30分～
 午後3時30分～
 場所 教育会館1階「プラネタリウム」
 対象 各回先着140名

*投影日や観覧料はホームページ等をご覧ください(8月20日は休館日)。
 *観覧券は当日朝9時から販売します。



(c) INAZMA Project

[編集後記]

今回梅丘図書館の館内見学ツアーに同行し、普段利用している図書館でも見えないところにこんなに面白い部分があるのかと驚きの連続でした。とにかく古い建築物なので、必要な設備も施設のコンセプトも今とはまるで違うと思います。どうしても建物ですか

らいつかは建て替えなければならないものです。愛着のあるものがなくなるのはとても悲しいことですが、新しくなった図書館でもたくさんの思い出を作っていくください。皆様に愛される図書館になることを祈っています。(F・I)

ポピュラーフロアスタッフおすすめ



日本ご当地おやつ大全

—地元ではおなじみ!みんな大好きな味—

編：日本懐かし大全シリーズ編集部
辰巳出版
書誌番号：006491062

長年地元民に愛されてきた各地の「ご当地おやつ」にどのようなものがあるか、みなさんをご存じですか?その地域の特産品で作ったものやオリジナリティあふれるデザイン、独特の味付けがご当地おやつの魅力です。

本書では全国津々浦々のご当地おやつの味や特徴に加え、味へのこだわり、パッケージの移り変わり、誕生エピソードなどを紹介しています。お菓子だけでなくジュースにも注目しており、特に地域ならではの個性を比較して楽しめる懐かしいご当地サイダーを見ると、全国を巡って飲んでまわりたい!そんな気持ちが芽生えてきます。

昭和から受け継がれてきた素敵なおやつ文化をじっくりご堪能あれ。

人文・社会フロアスタッフおすすめ



94歳、自撮りおばあちゃん

—やりたい放題のひとり暮らし—

著：西本喜美子
宝島社
書誌番号：006476830

熊本在住の西本喜美子さんは、美容師から競輪選手に転身して活躍。結婚して引退、主婦・母として近所付き合いだけという生活でした。

転機は72歳。息子の写真教室の生徒が撮った作品でした。初めて写真を面白いと思った喜美子さんは、写真教室に通い始めます。見る人を驚かせたい・楽しんでほしいと作ったゴミ袋にくるまった自虐写真などが注目され、Instagramのフォロワー数は31万人超です。

「興味を持ったらとにかくやってみる」、「死ぬまでカメラは手放さない」という喜美子さん流の長生きの秘訣、私たちにも大いに学ぶところがありそうです。

自然科学フロアスタッフのおすすめ



デジタル時代にだまされないための

18歳からの「契約」超入門

—マンガと図解—

著：遠藤研一郎
講談社
書誌番号：006484284

本書は若者に向けて分かり易く「契約」に関するトラブル事例や、その対処のヒントを解説したものです。タイトルの「デジタル時代」の言葉どおり、代金未払い、不良品などインターネットを通じての取引トラブル事例のほか、サービス残業やマルチ商法等様々な問題に言及しています。

そして本書の事例の導入部の解説マンガは、他人事ではないことなのだ、読者の当事者意識を喚起します。各事例に添えられた法の条文には「超訳」と称した簡潔で分かり易い説明もあり、気軽に読み進められます。様々なトラブルも事前に知識があれば回避や対処できることもあります。本書が転ばぬ先の杖となるかもしれません。

こどもフロアスタッフのおすすめ



パンツをはいたクマ

—もやもやする!—

文：ジョリ・ジョン 絵：エリン・クラーン
訳：鈴木沙織
化学同人
書誌番号：006490265

朝ごはんを食べて、身支度も完璧。お花に水もあげたし、さあ出かけよう!でも、なにかを忘れてる気がするクマ。なんだかモヤモヤします。外へ出かけ、友達に会うたびに挨拶をします。絶対なにかおかしいはずなのに、誰もなにも言いません。気のせいなのでしょうかね?でもやっぱり気になるクマは、モヤモヤの原因を突き止めるため、しっかり者の友達、アンダースの元へ向かいます。

あれ?と、思っても変に気を遣って言い出せない、そんな状況は世界共通なのかもしれません。しっかり者のアンダースの機転に感動します!?

